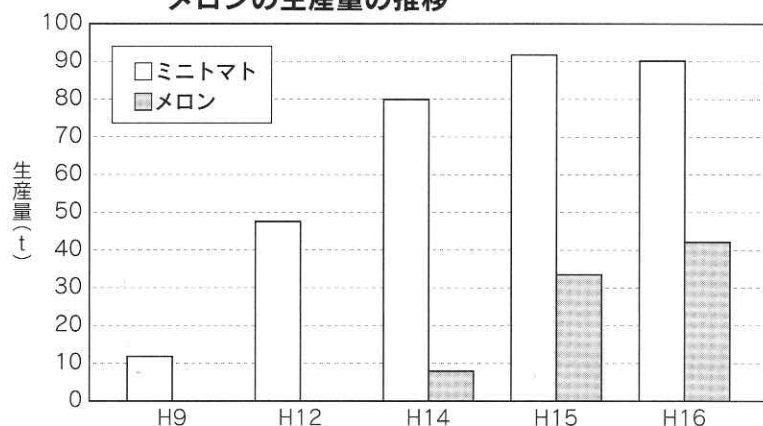


図2 高岡地域におけるミニトマトおよびメロンの生産量の推移



した。また、C農家は新規就農者で、施設整備済みのほ場でハウス栽培（ミニトマト・サンチュ）に取り組んでおり、高い農業所得を確保している。

このように、限られた農地面積で集約化を図り所得を確保するうえで、かんがい用水は重要であり、畑地かんがい施設の整備が所得向上と新規就農の契機となる可能性が示唆された。

「地域営農の活動実態」

石狩市では、平成9年度より天候に左右されない高収益作物の振興方策として、施設園芸作物振興5カ年計画を樹立し、道および市をはじめとする各関係機関の協力のもと施設園芸ハウス設置の助成支援事業（元気づくり事業）が実施されてきた。これにより、高岡施設園芸生産組合が発足し、5戸の農家によりミニトマトの生産が始まった。

さらに、道営緊急畑総事業によって畑地かんがい施設が整備され、末端ほ場までかんがい用水が確保されたことで、平成16年度までに高岡施設園芸生産組合は9戸（新規就農4戸を含む）に増加し、生産量が飛躍的に増加している。

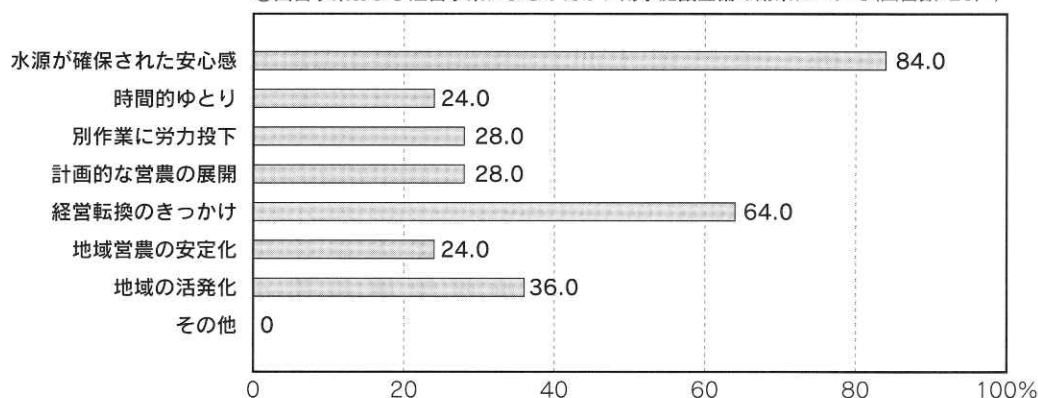
また、新たに高岡メロン生産組合も発足（平成14年・5戸）し、いずれの生産組合も出荷農作物に対する市場の評価は高い。

各組合の活動状況としては、現地講習会や視察研修などの生産技術向上に向けた取り組みをはじめ、「石狩市農業まつり」での販売による地域内消費の拡大や立地条件を活かし

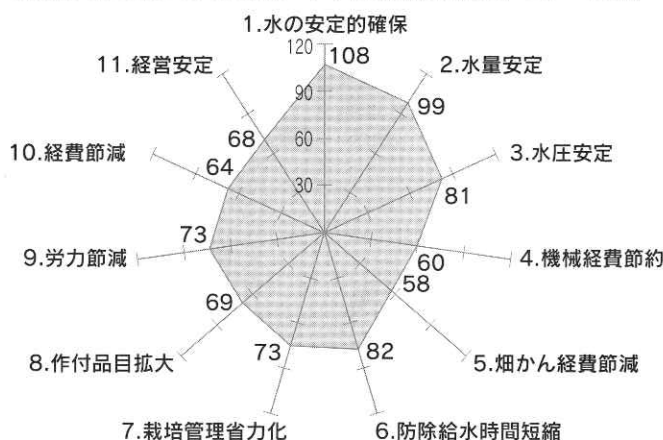
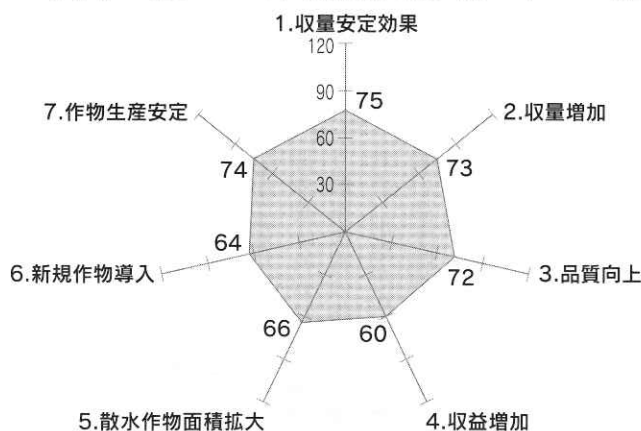
た「都市近郊型農業」の確立に向け、各種事業や生産組合活動などの取り組みが積極的実施されており、生産量（図2参照）も増加・安定している。

図3 かん水施設導入農家へのアンケート集計結果

①国営事業および道営事業によるかんがい用水施設整備の効果について（回答数：25戸）



②栽培への効果について（5段階評価：満点5点×20戸＝100点） ③施設が整備されたことによる効果について（5段階評価：満点5点×23戸＝115点）



なお、高岡施設園芸生産組合は平成14年にエコファーマー認定に引き続き、平成15年には石狩市内の生産組合として初めてYES! clean

「北のクリーン農産物表示制度」の認定を受けており、クリーン農業の推進に向けた取り組みが積極的に実践されている。

また、地域での取り組みとして、施設園芸の導入による労働力問題を解消するために、石狩市・JAいしかり・農業委員会

で組織された石狩市総合農業支援センターの生産支援体制により、水稲作業の受委託システムとグリーンサポーター事業（ハローワークの許可を得て生産者に代わってパートタイマーを募集し、農作業の補助労働力とする雇用労働システム）の活用により、雇用労力を確保し労働体系の改善が図られ、集約的な農業展開を可能としている。

これにより、平成16年度現在で6戸の新規就農者（新規参入者）が地区内で営農を始めており、担い手不足の解消の兆しもみられている。

このように、高岡地域では

畑地かんがい施設整備に伴い、高収益作物の導入による経営転換や地域農業の活性化など、地域農業の振興に大きく寄与している状況がうかがえる。

「地域のかん水実態」

地域のかん水状況は、露地野菜では主にブロックリーの育苗および栽培期間中のかん水が実施されている。また、施設栽培ではミニトマト・メロンへのかん水が実施され、いずれも多孔管が主体となっている。

本地区のように収益性の高い地域農業の確立を目指し、集約的農業を展開している地域では、施設導入費用の縮減と栽培作物の特性から、多孔管を用いた散水システムの適合性は高いものと期待される。

かん水実施農家のアンケート調査（平成14年度アンケート実施…回答数25戸）から、かん水の効果としてミニトマトおよびメロンなどのハウス

栽培では、移植期および肥大期のかん水による活着促進や肥大効果を高くしている。また、露地野菜では、ブロックリーの移植期における活着促進、スイートコーンの絹糸抽

出期における増収効果について評価している。

一方、かん水作業はほかの営農作業（防除・除草など）と重複することが多く労力負担を感じているが、より高い品質を目指す上で重要な作業であるとしている。

また、従来からかんがい用水の確保に苦労してきた地域において、畑地かんがい施設が整備されかんがい用水が確保されたことの効果として「水源が確保された安心感」（84%）、「経営転換のきっかけ」（64%）、「地域の活性化」（36%）を高く評価（図3）している。

このように、実際の地域営農の動向からも、用水の安定に伴う地域営農の安定化や活発化の動きがみられ、畑地かんがい施設の整備が地域農業の発展に寄与していると評価できる。

「市場・消費者の評価」

（1）市場の評価

流通市場（札幌中央卸売市場）の評価として、市場における石狩市高岡産ミニトマトの評価は高く、出荷量の増加を希望している。また、ミニ

トマトのみではなく、近年では石狩市高岡産のメロン、ダイコンなどの取扱数量も増加傾向を示している。

（2）消費者の評価

消費者の評価として、石狩市で開催された「石狩市農業まつり」の参加者にアンケート調査を実施した（平成15年度…回答者数112名）。

畑地かんがい施設の中で、農業用ダムの認知度は高いものの、具体的な用水利用状況については、認知度がやや低かった。また、施設整備に伴いミニトマトの生産体制が確立されてきたことについても認知度は低かった。一方、石狩市産（高岡産）ミニトマト

に対する味の評価は高く、このようなアンケート調査の実施は、畑地かんがい施設の整備、高岡地域のミニトマト生産の認知度の向上につながったものと思われる。

また、アンケートの取り組みの必要性（65%）や石狩市産農産物のPRの必要性（49%）についても回答率は高く、今後の事業PRのあり方などを検討するうえで参考となるものである。

まとめ

高岡地域における畑地かんがいと地域営農の関係について整理した結果を図4に示す。従来、施設園芸に特化した地域ではなかった高岡地域において、かんがい用水が確保され、集約型作物と土地利用型作物の方向性が明確となり、集約型農業においてはミニトマトを主体としたハウス栽培が拡大し、生産性の安定、収益性の向上など、地域営農の変化がみられた。

また、都市近郊の立地を活かした施設園芸を拡大するための施策と労働力を確保するための施策の相乗効果により、かんがい用水を利用した営農形態が定着しつつある。

このように、畑地かんがい施設の導入により、個々の営農の変化と地区内の営農の変化がみられ、施設整備は地区特性に応じた営農目標を設定し、着実に実践していくための生産基盤となり、その重要性が示された。

また、かんがい用水の安定的な確保と用水利用の利便性向上は、将来的にも導入作物の選択肢を拡大し、後継者・新